

編集後記

季節はだんだん暖かくなってまいりましたが、なかなか新型コロナ感染症の終息が見られません。会員の先生方も神経を張り詰めて診療に従事されていることと推察いたします。体調に充分ご留意ください。

「誌上ギャラリー」は、天辰健二先生の「和気公園の藤」です。和気公園の隣に和氣清麻呂を祀った和氣神社があることを知りました。一度訪れてみたい公園です。

「論説と話題」は、鹿児島市医師会病院園田 健院長より「第3回医師会病院協力運営委員会報告」をしていただきました。また、2月に開催された日本医師会医療情報システム協議会の参加者4人からの報告をお読みください。

「医療トピックス」では、鹿児島市医師会病院薬剤部の福元裕介先生より経皮吸収型ドパミン受容体刺激薬についてご投稿いただきました。パーキンソン病の日常診療に大いに役立つ記事であると思います。

「学術」には、いづろ今村病院新中須 敦先生より「高齢者糖尿病患者の治療」をご投稿いただきました。高齢者の糖尿病患者の特徴、治療目標、血糖コントロール目標、食事療法、運動療法などを分かりやすくまとめていただきました。また、今村総合病院鮫島洋一先生より「当院で経験した経口的消化管異物の症例」を報告していただきました。

「医師会病院だより」は園田拓郎先生によるペインクリニック内科の紹介です。また、週間診療案内と外来週間スケジュールを掲載しておりますので、参考にしていただけたら幸いです。

「随筆・その他」は、まず古庄弘典先生による「切手が語る医学」は「偉人切手 チェコ」です。医師のみならず作曲家、作家、政治家などが登場しました。小田原良治先生には「医師法第21条に欠かせない広尾病院事件東京高裁判決」をご寄稿いただきました。広尾病院事件東京高裁判決を解説し

ていただきましたが、医師法第21条の再認識が重要です。

その他、武元良整先生から投稿していただきました。今後も会員の先生方の積極的なご投稿をお願いいたします。また、「リレー随筆」は鹿児島県立姶良病院の富永佳吾先生の「精神科サマリー」です。

「区・支部だより」では北区懇親会および伊敷地区三師会の活動報告をしていただきました。

「各種部会だより」は、臨床検査センター主催学術講演会、学校医会幼稚園・保育園部会研修会の報告です。各専門分野で研鑽を積んでおられる会員の先生方の姿が浮かんでまいります。

「各種報告」では、理事会の概要をはじめ、各種委員会、令和元年度日医母子保健講習会などについて報告しました。医師会活動にも関心を寄せいただきたいと思います。また、大坪修介先生より「鹿児島市特別支援連携協議会のご報告」を寄稿していただきました。同協議会は、「障害のある幼児、児童生徒」に対する支援体制の促進をするためのものですが、そのためには「移行支援ノート」を周知し記載をしていただくことが大切であることを強調されておられます。

「附属施設だより」では、医師会病院の令和2年1月の診療・収支実績と検査センターの令和2年1月の実績および令和1年12月の収支実績の報告をいたしました。第3回医師会病院協力運営委員会報告にもありましたが、医師会病院の経営はまだまだ安定していません。医師会病院の現状をご理解いただき、ご紹介をお願いいたします。

今月の「鹿市医郷壇」の題吟は「祝(ゆえ)」でした。最近、投稿者が少なくなっています。是非、多くの会員の皆様からの投句をお待ちしております。

(編集委員長 長友 医継)